

開催地名	秋田県能代市
開催日時	令和5年7月5日(水) 15:30 ~ 17:00
開催場所	能代市文化会館
語り部	大須 武則 (宮城県石巻市)
参加者	能代市自治会連合協議会総会参加者、能代市職員 約90名
開催経緯	昭和58年(1983年)日本海中部地震から40年の節目の年を迎え、当時の被災やそれを受けての教訓を忘れることのないよう、今回の消防庁主催・防災意識向上プロジェクトに参加することとした。
内容	<p>(1) 石巻市の被害状況</p> <p>震度6強、津波8.6m以上(データが残っている最大で)、津波浸水高17.5m(実際の浸水状況、ビル4階程度)。死者3000名以上、現在も行方不明400名以上。全壊19976棟(全住宅の約27%)、半壊13096棟、避難者数50758人、ライフライン(電気・水道)の復旧は4月7日頃までかかった住宅も多い。携帯電話も非常につながりづらくなった。(携帯電話会社4社とも)原因の大半は携帯電話会社基地局の停電であった。</p> <p>(2) 震災体験と教訓</p> <p>地震発生を前提に、日頃からデスク下、周りの整理整頓を実施しする必要がある。車での避難は、大渋滞にまきこまれ動けず津波に流されるケースもある。水害への備えは、1階は浸水の可能性が高いため、発電機や重要書類などは2階以上がよい。企業は、社員の安全確保のために、防災指針・避難訓練が何より大切である。町内会と企業の連携も検討をする必要もある。企業が避難場所になることも想定し普段から相互の連携と準備を整える必要がある。旅先などの初めての土地でも、災害を念頭に「もしも」を考えておくことが大切である。災害を「自分事」として行動し、過去の災害から学び準備をすることが大切である。災害時には、住宅・事務所での盗難が相次いだり、近隣住民がパトロールしてくれた地域もあったため、地域住民同士の助け合いが重要である。ボランティアを積極的に受け入れる「受援力」も必要である。あらためて地域の共助の大切さを実感地域一丸となってがれき、泥の撤去を実行。各種保険、義援金や支援金等もしっかり活用していくことが大切である。自分が住む地域の地理や災害の歴史を学び、過去の災害時の分析と対策を実施することが大切である。</p> <p>(3) 町内会の課題、震災遺構に関して</p> <p>災害発生前は、執行部の高齢化、役員のなり手不足、町内会活動への無関心、防災意識と知識の不足があった。災害発生時は、避難行動要支援者への対応、避難所の開設・運営。津波避難ビルへの避難誘導が必要になる。復興期は、災害公営住宅の管理の問題、災害公営住宅と町内会のかかわりなど、石巻市震災遺構門脇小学校、石巻市震災遺構大川小学校など震災の影響の大きさがわかる施設を開放しているのでぜひ一度見に来て欲しい。</p>



開催地より

大須様より実際の被災体験に基づいた教訓、そして災害を自分のこととして考える大切さ、災害に備える意識を常に持つことの大切さを実体験に基づいた貴重なご意見が多くあった。今後の防災対策の一つのヒントとしてぜひ活用していきたい。